

明治が薫る「松方別邸」を

大解剖！

千本松牧場敷地内の一角に、木立に囲まれてひっそりとたたずむ「松方別邸」。明治のおもかげがそのまま残る建物をお見せします。



和と洋が入り組んだ不思議空間

松方正義（公爵・内閣総理大臣）は、1903年（明治36年）、自身が所有する千本松農場敷地内に木造2階建ての別邸を建設します。1階は石づくり（またはレンガづくり石貼り）、2階は木造板貼りの洒落た建物は、松方家の管理のもと、昔の姿をどめたまま今日まで大切に保存されています。非公開の建物内部を今回、特別にご紹介します。



▲居間 食堂と同じ壁の色でも、調度品が落ち着いた色味であたたかみを感じる部屋。



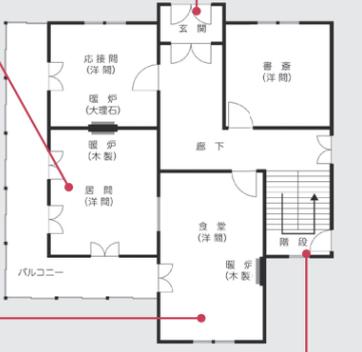
▲正面玄関 瓦屋根の玄関ポーチが突き出ている。



▲食堂 赤いじゅうたんにオレンジの照明、ブルーグレーの壁と、重厚かつ華やかな色使い。

1F

玄関を入ると、廊下の右手に応接間と居間、左手に書斎があり、玄関の正面に食堂が位置しています。すべて洋室で、天井のレリーフや照明器具、窓の意匠や昔の調度品など、貴重なインテリアに目をうばわれます。



▲大正天皇と昭和天皇が皇太子時代に宿泊されたことのある由緒ある和室。



▲天井ライトのレリーフ まるで雪の結晶のような繊細なレリーフ。部屋ごとに少しずつデザインが異なる。



▲屋根裏部屋 和小屋という伝統的な日本建築の工法が用いられている。

▲暖炉 ウシやヒツジなど牧場の風景が描かれたかざりタイル。



▲バルコニー 陽の光が入って明るいガラス張りの長いバルコニー。

2F

2階は和洋折衷のインテリアが特徴。天井の高いたたみ敷きの和室に、大理石や木製の暖炉が備えつけられています。暖炉は部屋ごとにデザインがちがう凝ったつくり。サンルームのようなガラス張りのバルコニーも当時のまま残されています。



▲屋根裏に上がる階段



▲2階に上がる階段

今に残る美しい調度品

松方別邸の調度品の多くは、昔のものが残されています。時を経て美しい色味やつやが増した家具など、今ではめずらしい昔のデザインや形のインテリアばかりです。



▲食堂の壁際にある木製のベンチ。こぶりでかわいらしいデザイン。
▲玄関にあるコートかけ。鏡やかさ立てなどがついていて多機能。
▲居間にある一人がソファ。ほかの調度品と調和する落ち着いた風合い。
▲居間の暖炉の上のオイルランプ。ランプの下に油が入るつくり。